

三河の昆虫

No.4 1973年11月

〒448 刈谷市井ヶ谷町
愛知教育大学昆虫研究室内
三河昆虫研究会 発行
第一プリント社 印刷
☎ ◀564▶ ㊤4463

岡崎市の蝶

加藤真也

岡崎市における蝶類をまとめてみました。古い記録のものでは、今手元に標本のないものも含まれています。また、採集年月日は、多くあるものも、少数の記録のものも代表的な1例のみとしました。

〔あげはちょう科〕

ギフチョウ (1雄, 15.Ⅳ.1972) 保母町。

ジャコウアゲハ (1雄, 14.Ⅶ.1965) 桑原町。

アオスジアゲハ (1雄, 5.Ⅴ.1973) 岡崎公園。

アゲハ (1雄, 13.Ⅳ.1971) 岡崎高校。

キアゲハ (1雄, 15.Ⅳ.1971) 岡崎高校。

クロアゲハ (1雄, 17.Ⅴ.1970) 桑原町。

モンキアゲハ (1雌, 5.Ⅹ.1968) 奥殿町。

カラスアゲハ (1雄, Ⅷ.1961) 岡崎公園。

〔しろちょう科〕

モンキチョウ (1雌, 13.Ⅵ.1970) 桑原町。

モンシロチョウ (1雌, 27.Ⅹ.1970) 桑原町。

キチョウ (1雌, 20.Ⅹ.1970) 桑原町。

ツマグロキチョウ (1雌, 18.Ⅹ.1970) 桑原町。

スジグロキチョウ (1雄, 27.Ⅹ.1970) 桑原町。

ツマキチョウ (1雄, 10.Ⅳ.1970) 桑原町。

〔じやのめちょう科〕

ヒメウラナミジャノメ (1雄, 1.Ⅶ.1967) 稲熊町。

ジャノメチョウ (1雄, 1.Ⅹ.1967) 稲熊町。

ウラナミジャノメ (1雄, 16.Ⅵ.1968) 本宿町。

ヒメジャノメ (1雄, 13.Ⅹ.1972) 桑原町。

コジャノメ (1雌, 4.Ⅷ.1971) 桑原町。

ヒメヒカゲ (1雄, 14.Ⅶ.1967) 本宿町。

ヒカゲチョウ (1雄, 16.Ⅵ.1973) 桑原町。

クロヒカゲ (1雄, 15.Ⅵ.1970) 桑原町。

サトキマダラヒカゲ (1雌, 13.Ⅷ.1970) 桑原町。

〔まだらちょう科〕

アサギマダラ (1雄, Ⅹ.1959) 奥殿町。

〔てんぐちょう科〕

テングチョウ (1雄, 1968) 桑原町。

〔たてはちょう科〕

コムラサキ (1雄, Ⅹ.1970) 桑原町。

クロコムラサキ (1雄, Ⅵ.1970) 桑原町。

オオムラサキ (1雄, Ⅶ.1959) 桑原町。

ゴマダラチョウ (1雄, 6.Ⅵ.1971) 桑原町。

イチモンジチョウ (1雄, 25.Ⅴ.1970) 桑原町。

アサマイチモンジ (1雄, 20.Ⅹ.1970) 桑原町。

コミスジ (1雄, 1.Ⅵ.1967) 東公園。

キタテハ (1雄, 27.Ⅹ.1970) 桑原町。

アカタテハ (1雌, 20.Ⅹ.1970) 桑原町。

ヒメアカタテハ (1雄, 7.Ⅹ.1967) 魚町。

ヒオドシチョウ (1雄, 3.Ⅵ.1969) 桑原町。

ルリタテハ (1雄, 12.Ⅹ.1967) 桑原町。

ウラギンヒョウモン (1雌, 19.Ⅵ.1971) 桑原町。

ウラギンスジヒョウモン (1雄, 21.Ⅵ.1971) 桑原町。

1970) 桑原町。
 ミドリヒョウモン(1雄, 4.VII.1965) 奥殿町。
 メスグロヒョウモン(1雌, 27.X.1970) 桑原町。
 クモガタヒョウモン(性不明, V.1957) 桑原町。
 ツマグロヒョウモン(1雌, 15.X.1965) 桑原町。
 [うらぎんじみちょう科]
 ウラギンシジミ(1雄, 18.X.1970) 桑原町。
 [しじみちょう科]
 アカシジミ(1雄, 31.V.1970) 桑原町。
 ウラナミアカシジミ(1雄, 18.V.1968) 本宿町。
 ウラゴマダラシジミ(1雄, 31.V.1970) 桑原町。
 ミズイロオナガシジミ(1雄, 13.V.1970) 桑原町。
 オオミドリシジミ(1雄, 19.V.1971) 桑原町。
 ミドリシジミ(1雄, 16.V.1968) 本宿町。
 コツバメ(1雌, 29.III.1968) 桑原町。
 トラフシジミ(1雄, 12.V.1968) 桑原町。
 ムラサキシジミ(1雌, 17.V.1971) 桑原町。
 ベニシジミ(1雌, 20.X.1970) 桑原町。
 ヤマトシジミ(1雄, 14.VIII.1970) 桑原町。
 ルリシジミ(1雄, 27.X.1966) 稲熊町。
 ツバメシジミ(1雌, 27.X.1970) 桑原町。
 ウラナミシジミ(1雄, 18.X.1970) 桑原町。
 [せせりちょう科]
 ミヤマセセリ(不名) 桑原町。
 ダイミョウセセリ(1雄, 17.V.1970) 桑原町。
 キマダラセセリ(1雄, 2.VII.1964) 桑原町。
 イチモンジセセリ(1雄, 30.VIII.1968) 桑原町。
 コチャバネセセリ(1雄, 5.X.1966) 稲熊町。
 チャバネセセリ(1雄, 6.X.1966) 稲熊町。
 ホソバセセリ(1雄, 1.X.1967) 稲熊町。

オオチャバネセセリ(1雄, 10.X.1966) 稲熊町。

以上ですが、他に下記の3種がありますが、これは岡崎市に土着しているのかわかりません。

ミヤマカラスアゲハ(雄, VIII.1963) 桑原町。

スジボソヤマキチョウ(雄, X.1959) 桑原町(市川喬採集)。

クロコノマチョウ(性不明, XI.1960) 桑原町(市川喬採集)。

また、この他にオナガアゲハ、サカハチチョウ、シルビアシジミ、ミヤマセセリ、ギンイチモンジセセリ、ヒメキマダラセセリなどがありますが、これについても確実性について多少の疑問がありますので、ここでは除外しました。

まだまだ抜けている蝶があると思いますので、皆様方の協力でより正確な詳しいものになりたいと思います。最後に、この目録作成にあたって御指導や御協力をいただきました大平仁夫博士、市川喬氏、杉坂美典氏に深く感謝します。

三河地方で採集した 珍らしい甲虫

(その2)

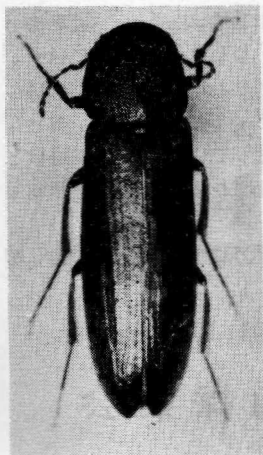
松野更一

先に「三河の昆虫, №2」で、山崎隆弘氏が発表された“三川地方で採集した珍らしい甲虫”に、本年採集した比較的珍らしいものを2, 3種追加して報告したいと思う。

1. アカマダラコガネ(1ex., 29.V.1973) 石巻山自然歩道の第1休憩所近くで、クヌギ?の樹液に来ていたものを採集した。また、豊川市でもクヌギの根元に潜んでいるものを1頭(16.VIII.1968)採集した。

2. コカブトムシ(1雄, 10.V.1973) 石巻山の自動車道寄りのナラ林で、倒木の空洞に潜んでいるものを採集した。

3. オオクロホソナガクチキ(1ex., 3.V.



オオクロホソナガクチキ

1973)

豊川市千両町で、クヌギの老木の根元をはっているものを採集した。

4. アメイロカミキリ (lex., 3. V. 1973)

宮路山の赤坂寄りの麓で、打網で採集した。

ついに発見できず、篠島からは絶滅してしまったのではなかろうか。しかし、丹(1960)の報告では、篠島の近くの木島から採集されているので、この島の今後の調査が必要であるが、埋立てなどが行なわれているので、これも望みはないだろう。

2. ゴホンダイコクコガネ

1952年5月31日に、本宮山のクラガリ山道で採集された。その当時、全部で何頭採集したのかよく覚えていないが、今手元に3頭の標本が残されている。その頃のクラガリ山道は細い道であって、人もほとんど入らなく、木材は主に馬や牛によって運び出されていた。採集場所は、今の営林署の近くの山道にあった牛糞からだ記憶している。本種もその後は本宮山から採集されていないものと思われるが、この仲間を調べている伴さんの話では、作手村の牧場ではまれに採集できるそうであるから、クラガリ山道から姿を消したとしても、前種とは事情が異なるわけであるが、いずれにしても本種は三河地方では珍しい種である。

採集されなくなった 三河の甲虫2種

大平 仁 夫

1. シロヘリハンミョウ

1955年7月9日に、三河国定公園の調査のため三河湾の篠島に出掛けた折、海岸の砂浜で採集されたこの種は、その後2,3の雑誌でも紹介されているが、どうしたわけか篠島からはこのとき1回きりで、その後は全くみつかっていない。その当時、海岸の砂浜には数多く産し、全部で10頭あまりは採集しているが、今手元には2頭しか残っていない。最近になって、山崎隆弘氏などと再調査もしたが、

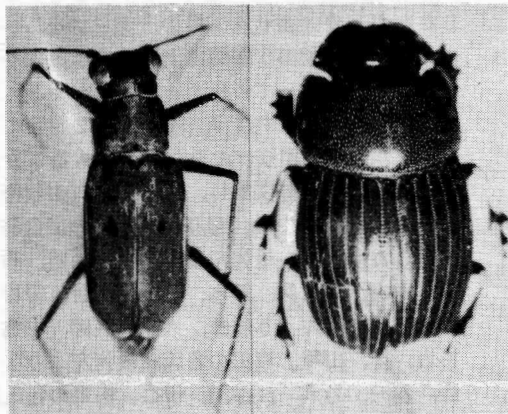
愛知県の

キマダラヒカゲ について

杉坂 美典

キマダラヒカゲ属が、日本に2種類分布していることは、最近になって明らかになったことの一つである。

愛知県には、この両種とも分布しており、一般的には、北部にヤマキマダラヒカゲが分布し、中部から南部にかけてサトキマダラヒカゲが分布している。例外として、茶臼山には両種が混生している。当地の周辺には、サトキマダラヒカゲは分布していないようで、ここでの両種の関係は興味深い。津具方面にはヤマのみが分布し、段戸山もヤマのみである。足助町では、サトのみで、ヤマは分布していないようである。この両種の分布に明確な境界線があるのかどうか、両種の交尾器に相異がないことからして、自然状態で交雑しているのかどうか、今後、調べていかなくてはならない問題である。



シロヘリハンミョウ

ゴホンダイコクコガネ

私と昆虫

—その3—

松野更一

私と昆虫とのつきあいはまだ浅く、始めて2、3年のかけだしです。子供が大の昆虫好きで、小学校1年生の頃から毎年夏休みの自由研究に昆虫標本を作っていました。子供が高学年になり、製作技術の向上を計るため、技術指導をお願いしたのが蒲郡市在住の山崎隆弘氏です。度々訪問しているうちに、私自身も昆虫に興味が出てきたので、思いきってやってみることにしました。これが私と昆虫との出会いです。

最初はかなり抵抗を感じましたが、今では毎日昆虫の顔をみないと日が暮れないほど昆虫に夢中です。採集は雨が降らない限り、ほとんど毎週家族全員で出掛けています。しかし、採集回数が多い割には個体数はあまり多くありません。それは、最近の著しい開発と公害によって個体数が減少したものと思われる。数年前にはかなり居たといわれる所を教えてください、時々その場所を訪ねてみますが期待するほどの個体数は発見できません。でも1度出掛けると、2、3種の新しい種類の昆虫が採れるので、採集がとても楽しみです。



当然のことですが、山崎氏の影響を受けて甲虫類を集めています。異なっていることは、山崎氏は系統的に昆虫を集めているのに対し、私は手当たり次第に集めていることです。しかし、クワガタムシやコガネムシやカミキリムシ科を主に集めています。最近、諸先輩に会うと、ぼつぼつ系統的に集めて研究するようにすすめられるのですが、何しろ私はまだ勉強や経験不足で、現

段階ではとても無理です。しかし、縁があって昆虫界への仲間入りをさせて頂いた以上、何か皆さんの役に立たねばと深く責任を感じています。さしあたって、当地方の昆虫分布の調査をやろうと思っています。採集回数と足で、一生懸命がんばりますから、是非利用して下さい。

最後に、諸先輩方の温かい御指導と御支援とを切にお願い申し上げます。

段戸山採集会

8月4・5日は、三河昆虫研究会の恒例の1泊採集旅行を段戸山で行なった。5日の朝に岡崎市の六所神社の境内に集合し、自家用車に分乗して出発、段戸山に昼頃着く。昼食もそこそこに各グループに分れて採集する。



今年は時季の関係か昆虫は少なく、蝶類や甲虫類などもあまりとれない。それでも、アオバセセリ、スミナガシ、コムラサキなどが少しとれた。夜はオサムシ用のトラップをしかけたり、段戸湖の水銀燈に出掛けて甲虫類やガ類を集めたりして皆夜半までガヤガヤとにぎやかであった。中には、夜の1～2時頃に起きて水銀燈に出掛けたりしたものもあった。

翌日は昼頃まで採集し、皆それぞれの収穫を得て無事解散した。写真は段戸山の宿舍前で写したもので、前列左より大平、原田、酒井、青山、大久保、鈴木、尾崎、松野、野村の各氏。中列左より加藤、大平、浅岡、小嶋、杉坂、伴、山崎、原田の各氏。後列左より小野、谷沢、竹本、長谷川、伊奈、松野の各氏。撮影者は山田さんです。